



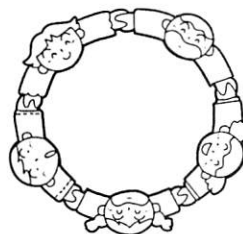
ガハテ村通信

篠山ナマステ会 兵庫県篠山市中野28 篠山国際理解センター内 TEL/FAX 0795-94-3979 振替口座 00930-6-29629



セティディビ小学校在籍生徒数 (2001年7月現在)

	男子	女子	合計
1年生	44	38	82
2年生	17	11	28
3年生	7	5	12
合計	68名	54名	122名



セティディビ小学校竣工
喜びにわくガハテ村

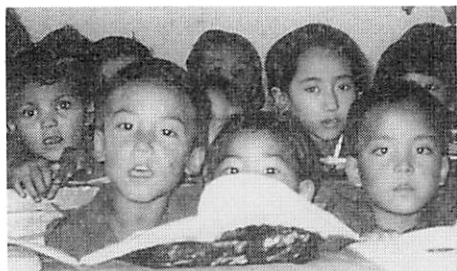
ナマステ会の皆さん ありがとう

セティティビ小学校から感謝の手紙が届く



新しい学校に学ぶ生徒を代表して、2年生の女の子(11~12歳?)が書いて、PHD20周年記念事業に招かれて来日したピスタ氏に託された手紙を、ショーバナさんに解読して頂きました。

ノートの用紙に、何度も何度も読み直し、書き直した精一杯の文面から、喜びの気持ちが伝わってきます。



ナマステ会のみなさんへ。日本に帰ってからどうしていますか、皆さんが私たちの貧しい村、勉強する機会のない村、マハテプスタンにすばらしい学校を建てて下さってありがとうございます。

私たち、みんな喜んで勉強しています。とてもうれしいです。今まで遠くの学校に行っていましたが、雨もりがしたり、先生もちゃんと来なかったので、あまり勉強ができませんでした。

この学校は先生もちゃんと勉強を教えてくれて、本当にうれしいです。今は雨が降っても大丈夫という気持ちになります。

ナマステ会の皆さんが、忙しい中、苦勞して大きな学校を建てて下さった事に感謝します。私たちは勉強して将来の希望がもてます。

ナマステ会の皆さんたちのように、将来、私たちも困っている人達に勉強を教えたいと思います。

この学校では女の子も男の子も勉強できることがうれしいです。この学校に入るまで苦勞ばかりしていましたが、学校ができたことで苦勞がなくなりました。

私たちは勉強したいし、いろいろな知らない事を教えてもらいたい、努力してがんばります。学校できめたことをちゃんと守っていきます。学校の仕事や掃除もちゃんとして、日本の皆さんと本当によかったと思えるようがんばります。

ナマステ会のお手伝いや、竣工式を日本の皆さんと一緒にしたいです。

श्री नमस्ते लक्ष्मी मित्रावरु
आपान

श्री नमस्ते लक्ष्मी पत्रकारि उग्ररु हामी कक्षा २ (दुई) मा
अध्ययन गर्ने सम्पूर्ण पाठ पढाउनु वा बलबालिकाहरुबाट सार्कि
सम्मानना स्व धन्यवाद दिन चाहनु । तपाइहरू यहाँ जानु भन्ने देखी यहाँ
सम्म आनु भन्ने केन किन हो ? पा तपाइहरूले राम्रो जस्तो शिक्षित
र पिढीको यस का नं-दमा यस महोत्सवान के श्री लक्ष्मी
र नमना विद्यालय बनाइ दिइर हामी योपा खुलाइ दिनु भन्ने
समे यत्नो यो विद्यालयमा पढन पाउनेका एकदम खुसी हौं ।
हामी यस विद्यालयमा यो पढाउनु सरह छि सम्मान
हामीलाई पढाउन अनुमति दिनु परे हामी भन्ने तपाइहरू जस्तै
शिक्षित र यो बच्चाहरु गर्ने मान्ने बन्ने सोच बनाएका हौं ।
यस गा. व. वि. व. के भन्ने विद्यालयको भन्ने हो भने पढा
खेरी पानी पर्दा यो योको दानो बाह्र पानी खुले
निभिराई र यसरी पनि पढाउनु पराउँदै नपढाए पर जानु
हुन्छथो । तर भन्ने पानी पर्दा हामीलाई कुनै खसको सम्मान
पढाउनु । त्यसकाठा यो त तपाइहरूले दुःख मन्नेले हामी विद्यालय
भवन निर्माणको लागि सधैरै गरीदिनु भन्ने तपाइहरू प्रति सार्कि
आभार व्यक्त गर्न चाहन्छौं । त्यसको साथसमे हामी जस्ता
गरीबलाई लगा पनि दिनु भन्ने हामी सधैरै गर्नु भन्ने हो ।
हामी एकदम खुसी हौं । हामी यो तपाइहरूको हामी
पढाउनु अनुमति हामी र हामी बच्चाहरु सम्मान गर्ने
मान्यता अनुमति हामीलाई मात्र पढाउनु परे होरी भन्नेको
अर्थको सरमा जाने यसका पढाउनु हुने भन्ने तर तपाइ
हरूको सम्मानले महो विद्यालय भवन निर्माण सधैरै यस
विद्यालयमा होरा मान्ने भन्ने होरी माइलाइ भन्ने पढाउनुको
लागी भन्ने गरिनुको हामी साथसमेको भन्ने
बाह्र सुनिथो ।

पढाउनु पढाउनु हामी





9月30日、長者屋敷（網掛）での記念会に丹南中学校生徒会代表よりカンパが届けられました。

ネパールの子供たちへ
続々届く善意の募金

市内各学校からのカンパ金

13.9.30	丹南中学生徒会	43,000円
13.10.2	鳳鳴高校生徒会、PTA、教職員	120,000円
13.11.18	今田中学校	50,000円
平成13年度募金高		510,330円
平成13年度ネパールへ送金		445,000円

セティディビ小学校では竣工を待ち兼ねたように、大勢の生徒が集まって来て授業が始まっています。

みなさんからのカンパで新しい制服も出来、周囲の環境も整備され、次第に学校らしくなってきました。

新しく1年生に入学した子ども達も、ようやく自分の名前が書けるようになりました。喜びの気持ちをこめて書いた寄せ書きのサインと共に先生からも感謝のメッセージが届いています。

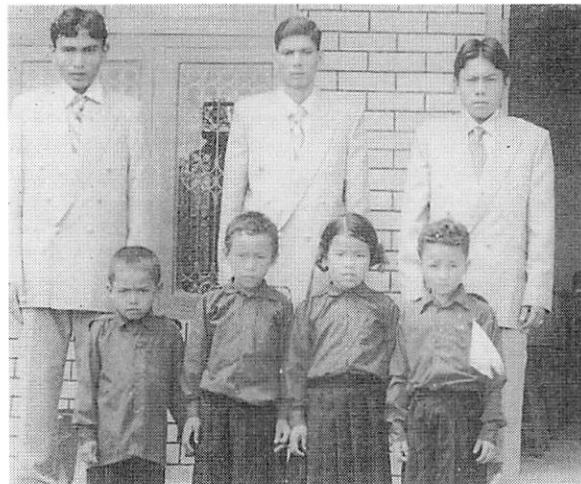
これからこの子ども達と、共に生きる営みを通して、いのちの有りようを一緒に学んで行きましょう。

「ナマステ会」の本当の事業が、今始まるのです。



先生からのメッセージ

- ☆私たちの学校が、すべての点でモデルスクールになっています。
- ☆制服が着られることがとてもうれしい。
- ☆貧しい村に住んでいる人達に必要なこと立派な学校を日本の皆さんに建ててもらいこの村の将来、これからの希望につながります。
- ☆子ども達は貧しさやいろんな事から抜け出ることが出来ると思い、私たちは大変うれしいです。ありがとうございました。
- ☆ナマステ会、日本の皆さんが竣工式に出席して下さいることを待っています。



再び、篠山発アジア・ネパール

PHD・たんば農文塾 二十周年記念事業

廿一世紀、共生の時代を考える

去る九月二十九日、「たんば農文塾」二十周年を祝う会が開かれました。

今から二十年前、農は文化なりを合言葉に、土に根差した心の豊かさを取り戻そうという地元の運動と、岩村昇博士が提唱されるPHD運動の研修拠点探しが重なって、後川新田の小島清春さん所有



の築後二〇〇年を越えるカヤ葺き民家を借り受け、屋根の葺き替えのために地元の多くの団体や、個人のボランティアの皆さんでカヤ刈り十字軍を編成して、延べ一千人もの人達が力を合わせて、修復に汗を流しました。

そしてPHD研修生として招かれたバート・ビスタさんたちが、ここで合宿生活を送りながら、地元の青年たちとの交流を通じて、物から心へ土に根差した生き方の原点を求めての運動が続けられました。

それ以来二十年の歳月に、社会は目まぐるしく変転する中で、PHD運動と連帯しながら、共に生きるいのちの原点を見つめ、ネパールで学校建設の支援活動が続いている「ナマステ会」の活動に、この理念が脈々と受け継がれて

いるのです。今改めてもう一度、あの時の燃え立つような思いを振り返り、「再び、篠山発アジア・ネパール」の原点に立ち返ろうと、農文塾創設にかかわった人達や、PHD協会、「ナマステ会」の仲間が集まって、楽しい記念行事が持たれました。

第一期研修生として農文塾に学び、帰国後ネパールで生活改善運動「SSS」グループを立ち上げて活動しているビスタ氏や、ラダさん、サビ

トリさん、篠山に在住してネパールと日本の貴重な橋渡し役を務めて頂いているショーバナさんたちをゲストに招いて、農文塾創設当時から、今日までの『篠山とネパールを結んだ二十年』の、懐かしいスライドを上映して昔を振り返りながら、今後の運動の進め方について、さまざまな思いを語り合いました。

第一期研修生として農文塾に学び、帰国後ネパールで生活改善運動「SSS」グループを立ち上げて活動しているビスタ氏や、ラダさん、サビ



竣工式ツアー

延期します

ネパール王室の不幸な事件のために延び延びになっていたセティディビ小学校の竣工式が年明け早々に予定されて、その準備にはいっていましたが、今ネパールからの報道によりまずと、武装過激派組織によるゲリラ活動が多発しており、治安が悪化して旅行者の安全が保障されないという事態になっていきますので、とりあえず一月の竣工式ツアーは延期して様子を見ることになりました。

貧富の差が激しいネパールが、近代国家として脱皮するための通過点とも言える現象ですが、民衆の生活を押し流す怒濤のような革命よりも、沃野を潤すゆるやかな改革の流れになってほしいものと祈らずにはおられません。

